

回復期リハビリテーション病棟

内田病院 回復期リハビリテーション病棟の目指す姿

○令和2年度の目標

『患者さん、スタッフ共に元気な回復期
リハビリテーション病棟』となること

○令和3年度の目標

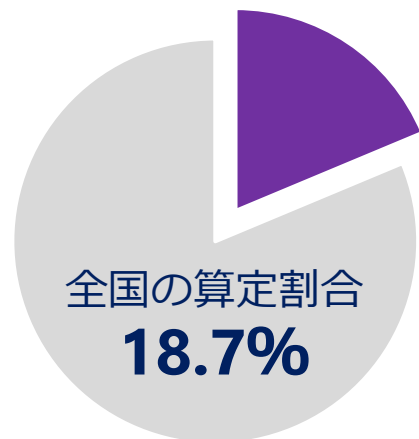
『各職種が力を発揮。ワンチームで元気な回復期
リハビリテーション病棟』となること

**当院は認知症があっても、認知症でなくても、
早くよくして、早く地域へ帰れる回復期リハビリ
テーション病棟として支援を行っていきます**

令和2年度 当院で算定している加算と全国の算定割合

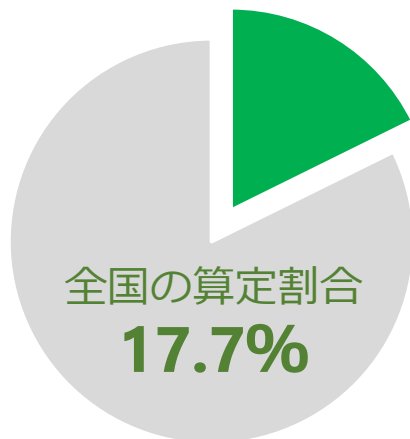
当回復期リハビリテーション病棟では全国でも算定割合が少ない加算を取得し、日頃より食事や排泄、認知症ケアの質の向上に努めております。

【摂食嚥下支援加算】



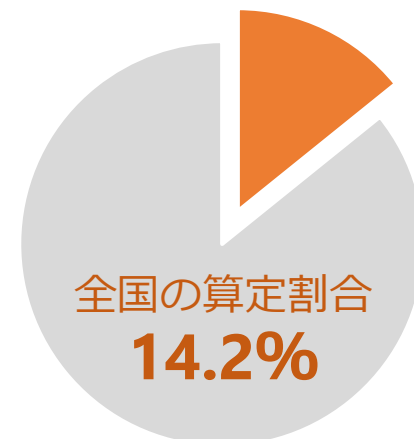
摂食嚥下に係る専門的知識を有した認定看護師や多職種からなるチーム（摂食嚥下支援チーム）の介入により、摂食嚥下機能の改善や必要な指導管理を多職種共同で行っています

【排尿自立支援加算】



排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチーム（排尿ケアチーム）が病棟の医師・看護師等と連携して膀胱留置カテーテルの抜去に必要な評価を行ったり、抜去後の排尿ケアを行っています

【認知症ケア加算1】



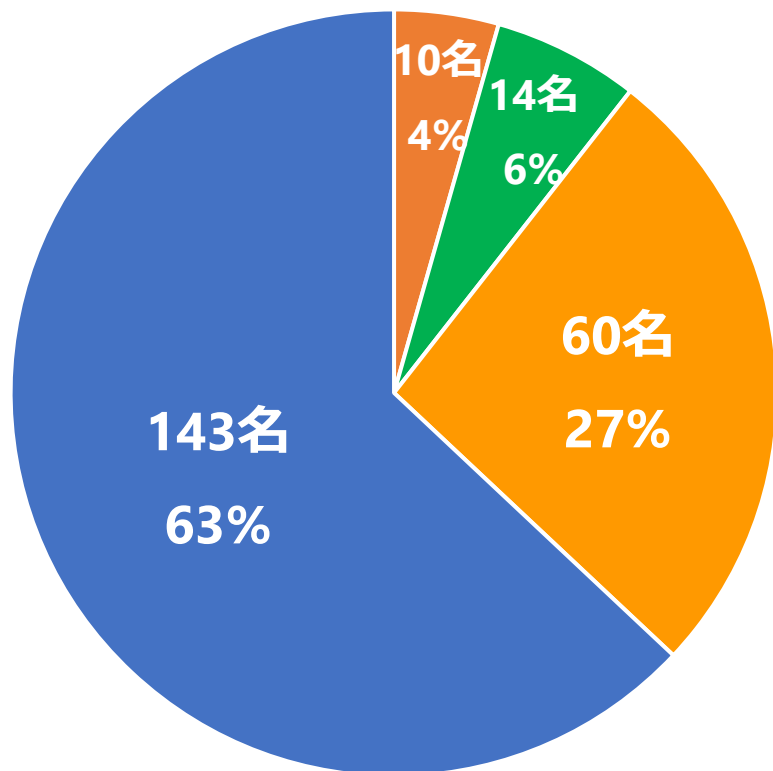
認知症ケアに係る専門知識を有した認定看護師や多職種からなるチーム（認知症ケアチーム）が病棟の医師・看護師等と連携して生活状況の把握を行い、認知症の症状に対して適切な対応を行っています

令和2年度 患者の年齢層と平均年齢

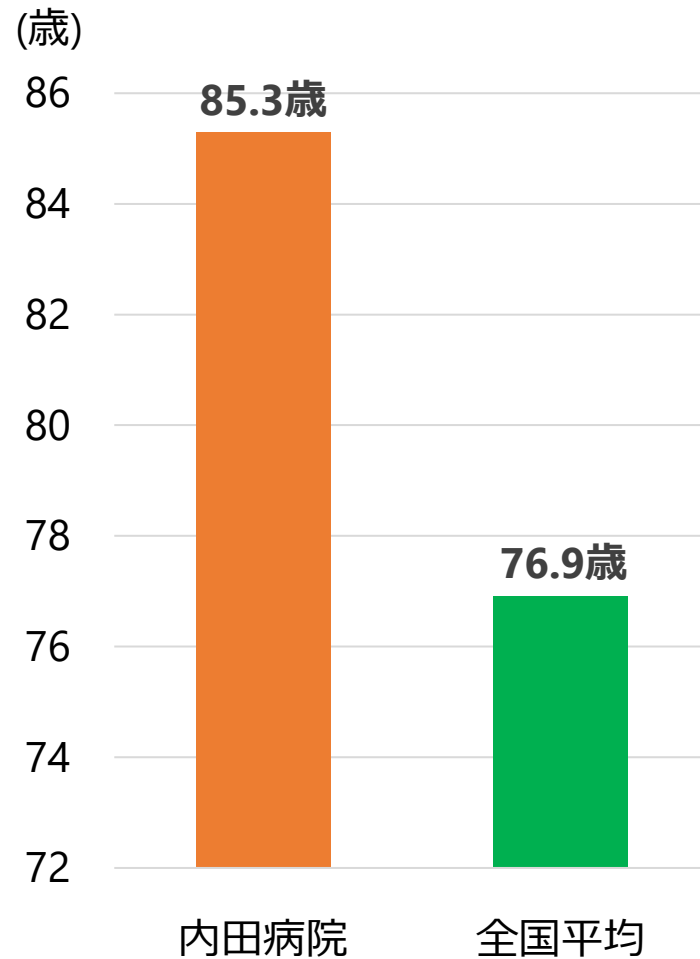
当回復期リハビリテーション病棟では地域においてニーズの高い、高齢の患者様を多く受け入れております。

【当院入院患者の年齢層】

- 45歳~64歳
- 65歳~74歳
- 75歳~84歳
- 85歳以上

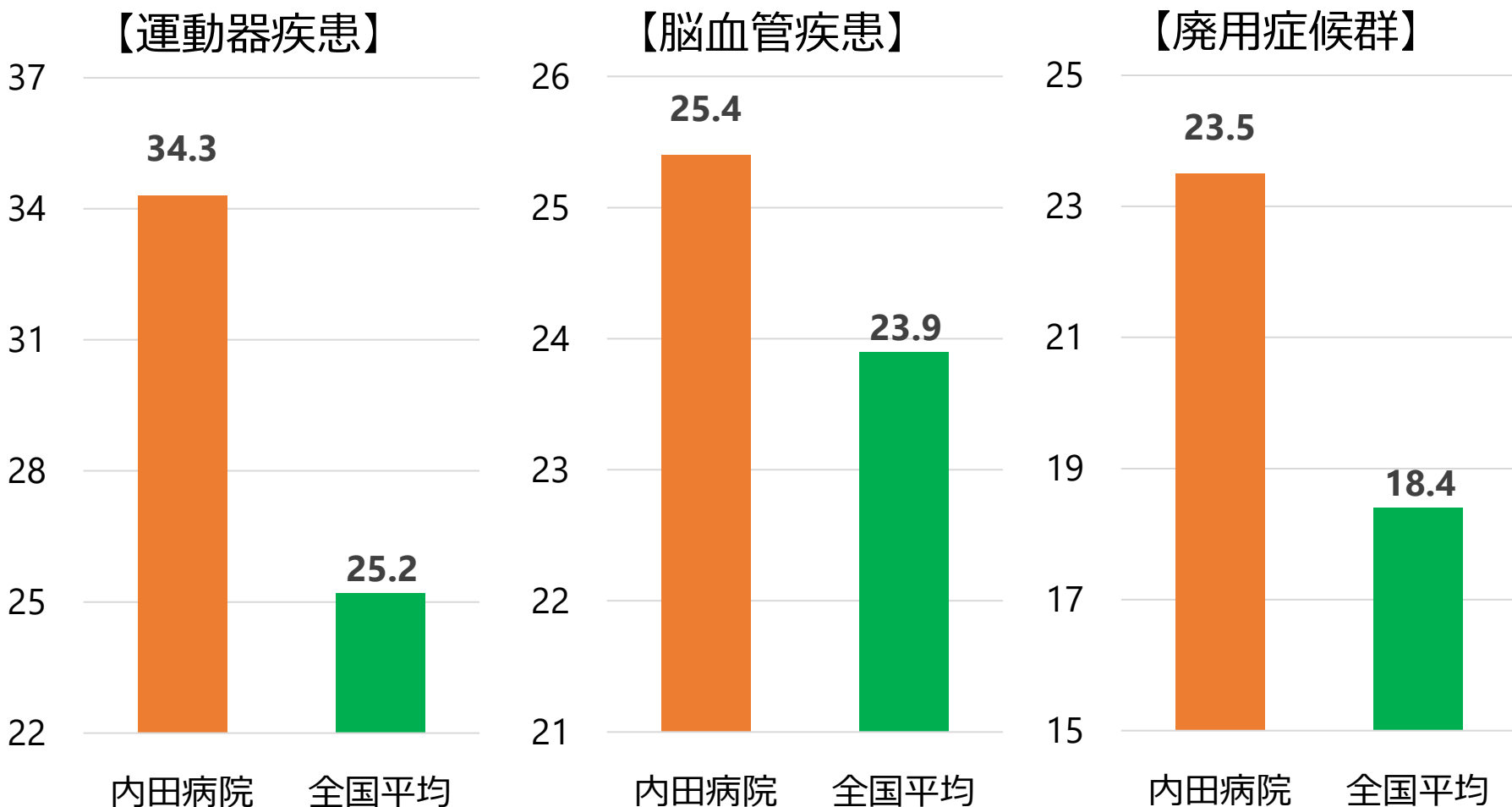


【平均年齢】



令和2年度 疾患別のFIM利得について

FIMとは日常生活動作の介助量を点数化して評価するための方法であり、FIM利得は日常生活動作の介助量をFIMで点数化し退棟時と入棟時の差を表したものです。今回復期リハビリテーション病棟では疾患に関わらず、全国よりも高いFIM利得（介助量が少なくなったり、自立している）となっています。



令和2年度 入棟時FIM別にみたFIM利得(運動項目)の全国比較

当回復期リハビリテーション病棟では寝たきりの患者様も受け入れており、入院時FIMが低い（日常生活での介助量が多い）方もおります。

一方で、入院時のFIMが高い患者様や中等度の患者様は全国平均よりも高いFIMの改善（介助量が少なくなったり、自立している）が図れています。

